

のぞみ学級 算数科学習指導案

日 時 令和3年10月8日(金) 5校時
児 童 男2名(3年1名 2年1名)
授業者

- 1 題材名 どんな計算になるのかな
(題材につながる単元) 3年A児「計算のきまり」(3年算数)
2年B児「たしざん」(1年算数)

2 題材設定の理由

(1) 児童について

本校の特別支援学級は、知的障がい児2名(2年男児・5年男児)と自閉症・情緒障がい児2名(3年男児・5年男児)の計4名が在籍している。障がいの特性や発達段階は異なるが、教育的配慮から、情緒障がい学級(のぞみ学級)では学年が近い児童(3年男児<以下A児>・2年男児<以下B児>)と一緒に過ごしている。

のぞみ学級のうちA児は、ADHDの診断を受けており、授業の最初から最後まで集中することが難しく、立ち歩いたり、動き回ったりする行動が見られる。また、自分の思い通りにならないと感情をコントロールできないこともあるが、自分の特性を認め、感情をコントロールしようとする様子がうかがえる。相手に対して傷つくようなことをストレートに言ったり、攻撃したりしたりしたこともあったが、客観的に自分がしたことを認め、反省できる素直な面も見られる。気持ちが落ち着いているときは学習したことを理解することができるが、気持ちが高ぶっているときには以前理解できていたことでも間違ってしまうことがあり、情緒の安定が一番の課題となっている。

B児は、7月に受けたWISC-IVで言語性理解、ワーキングメモリが60程度という結果になっている。基本的な生活習慣も完成できていない状態で、今学期当初は、言葉もはっきり発音できず、聞き手が聞き取れないこともあったが、徐々に語彙も増えて、日常会話ができるようになってきた。意欲的な面がある反面、疲れやすく、排泄の関係もあり、教室でもすぐに横になることが多い。

(2) 題材について

本題材は、小学校学習指導要領解説算数編 2第1学年の内容A数と計算、A(1)数の構成と表し方(ク)「まとめて数えたり等分したりすること」また、第3学年の内容A数と計算A(3)乗法ア知識及び技能(イ)「乗法の計算が確実にでき、用いること」に基づいて設定した。また特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章自立活動より2「心理的な安定(1)情緒の安定に関すること」3「人間関係の形成(1)他者とのかかわりの基礎に関すること」6「コミュニケーション(2)言語の受容と表出に関すること」をもとに設定した。

A児は、1学期の算数は個別学習をし、3年の内容を概ね理解することができた。四則計算もできるので、日常生活とつなげて乗法を確実にできることをねらいたいと考える。また、障がいの特性から、思ったことをそのまま口にして相手を不快にさせてしまったり、適切でない言葉遣いをしてしまったりすることが多々あるので、本題材を通して適切なコミュニケーション能力を培う一歩として考えている。

B児は、大きい数の数列は唱えることができるものの、2とびや5とびにはまだ触れていない。また、10のまとまりで考えるときに10円玉を例に考えさせようとしたところ、理解できず、そもそもお金を見たことがないと話していた。

今後、日常生活でも必ず触れることになる硬貨を使い、買い物する場面を設定し、楽しみながらたし算の学習を進めたいと考える。その中で、豊富になりつつある語彙もさらに増やし、会話のキャッチボールがさらに上手になるものと考えている。

(3) 指導にあたって

算数の学習では、それぞれの児童の特性に合わせ、たしざんやひきざん、かけざんなどの学習を無理のないハードルの高さに設定しながらも、基礎基本が身につくように学ばせていきたい。

本題材では、前半で算数科の学習を十分に行い、後半は前半で学んだことを基にして買い物の時に「どのような計算になるのか」を中心に考え計算することと、適切なコミュニケーション能力も育てていきたいと考える。

それぞれの児童の持つ様々な課題に対応するために、ソーシャルスキルトレーニングやコグトレを行うことで、集中して物を見たり、話を聞いたりする能力を継続してつけさせていきたい。

3 単元の目標

算数科で学習したことを効果的に活用することができるとともに、活動を通して対話等のコミュニケーション能力をつけることができる。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・算数で学習した数え方や計算の仕方を買物学習の時にも役立てる。	・どんな計算になるのかを判断して考えることができる。	・学習内容がわかり、自分で決めたためあてを達成できる。

4 評価規準と指導の手立て

次	時	学習活動	知	思	態	手立て	評価	
1	1	・実際の生活場面から、数の数え方を知る。 ・2とび、5とびで数える方法、それがかけ算の答えになっていることを理解する。	◎			・2個ずつ、5個ずつ入った食べ物で教師や友達と一緒に数える。	(知) 数え方やかけ算が正しくでき、それらの関係性を理解している。	
	2	・10ずつで数える方法、それがかけ算の答えになっていることを理解する。	○		◎	・10のまとまりの具体物を教師や友達と一緒に数える。	(思) 数え方やかけ算が正しくでき、前時を生かしてそれらの関係性を考えることができる。	
	3	・おつりを求める式を立てて実際にお金に触れて計算する。 ・児童対教師で買い物を想定して、式を考えて計算し、お金のやり取りをする。			◎	○	・買い物場面を設定して、代金とおつりを求める練習を教師や友達と一緒にやる。	(思) 式を考え、その式に合ったお金のやり取りができる。
2	4	・たし算やかけ算を使って、買う物の量を決める。 ・学んだことを生かして買い物をする。			◎	○	・駄菓子屋を想定して、何を買うか考えさせる。	(態) 式の表し方に関心を持ち、意欲的に計算する。 (思判表) 自分なりに考えたり、まとめたりしている。
	5 本時	・学んだことを生かして買い物をする。			◎	○	・駄菓子屋の実物を用意して、楽しみながら計算の仕方を考えさせる。	(態) 式の表し方に関心を持ち、意欲的に計算する。 (思・判・表) 自分なりに考えたり、まとめたりしている。
	6	・前時の課題を生かして、改善点を話し合い、もう一度買い物をする。			◎	○	・前時で直したいところを話し合い、もう一度お買い物学習をさせる。	(態) 式の表し方に関心を持ち、意欲的に計算する。 (思・判・表) 自分なりに考えたり、まとめたりしている。

5 児童の実態と個人目標

児童の実態	本時の目標
A 児	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の流れを理解し，途中で投げ出さずに，最後まで学習に取り組む。乗法や加法を使って買ったものを計算することができる。 ・減法でおつりを計算することができる。 ・自分も相手も気持ちよく学習できるように，気持ちのコントロールをしながら学習する。B 児に声をかけながら楽しく学習することができる。
B 児	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の流れを理解し，時間いっぱい活動することができる。 ・加法を使って買ったものを計算し，意欲的に買い物をしようとする「代金」「おつり」の意味を知る。 ・A 児と「何を買ったの?」「いくらかな」などの日常会話を増やし，友達や担任と対話しながら楽しく学習することができる。

6 本時の目標

それぞれが買った物の代金とおつりを計算して求める。

7 展開（5/6 時間）

段階	学習活動	支援の手立て		教材等準備する物
		A 児	B 児	
導入	1 挨拶をする	<ul style="list-style-type: none"> ・元気な声ではっきり言うように促す。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード ・マーカーペン ・紙板書
	2 本時のめあてを知る 3 学習の見通しを持つ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">お買い物をしながら，どんな計算になるのか考えよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・紙板書で視覚的にわかるようにして確認する。 		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">対話的な活動 1（自分との対話・教師との対話）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・今日頑張ることを発表させる。 			
展開	<p>4 課題に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ○お店で買いたい物を選ぶ。 ○買った物を自分で計算する。 ○支払いをする。 ○集中力が途切れやすいので，途中で日常の買い物の話などをしながら学習を進め 	<ul style="list-style-type: none"> ・B 児と同じ物が欲しいときには どうしたらよい か，補助する。 ・同じ物は，かけ算で計算できる ことを思い出さ せる。 ・お財布の中からいくら出したら 良いのか考えさ せる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・買った物を自分で計算することを意識させながら品物を選ばせる。 ・式を教師と一緒に考える。 ・買った物の数を教師と一緒に数える。 ・計算機で計算させる。 ・おつりを A 児と一緒に数える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物かご ・駄菓子 ・ワークシート ・計算機 ・お財布 ・現金

	る。		
終	5 ふりかえり	・学習をしてできたこと，わかったこと，友達のことなどを自由に発表させる。	・学習したことがわかる板書
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 対話的な活動 2 (全体) ・友達は何を頑張ったと話していたか，発表させる。 </div>		
末	6 挨拶をする	・友達の頑張ったところを認め合うことで，お互いの良さを知る。 ・担任が一人ずつ褒めて，自信につなげる。	

7 板書計画

おかいものしながら，どんな計算になるのか，考えよう。

A 児が買った物

紙板書

B 児がかったもの

紙板書

値段

・代金はいくらでしょう？

式

答え 円

・代金はいくらでしょう？

しき

こたえ 円

おつり

・おつりはいくらでしょう？

式

答え 円

・おつりはいくらでしょう？

しき

こたえ 円

買った物の数

・買ったものはいくつでしょう？

8 場の設定 (のぞみ教室)

